

すいせい  
彗星

## その遭遇

「彗星のように現われた新人歌手」というキャッチフレーズがあるように彗星は突然現われ、美しい姿を見せてくれます。その形がほうきに似ていることから「ほうきぼし」とも呼ばれます。秋のプラネタリウムでは彗星と人の出会いや彗星とはどのようなものかについてお話しします。題して「彗星との遭遇」です。

昔の人にとって彗星の出現は悪いことが起こる前兆だと思われていました。特に戦争が起こるとか悪い病気がはやくと言われました。日本でも飢きんや天皇の死と結びつけて考えられていました。富山県でも安政5年(1858年)に大地震が起こり、コレラが大流行しました。この時に彗星が見え、コロ



1682年のハレー彗星のイナージ

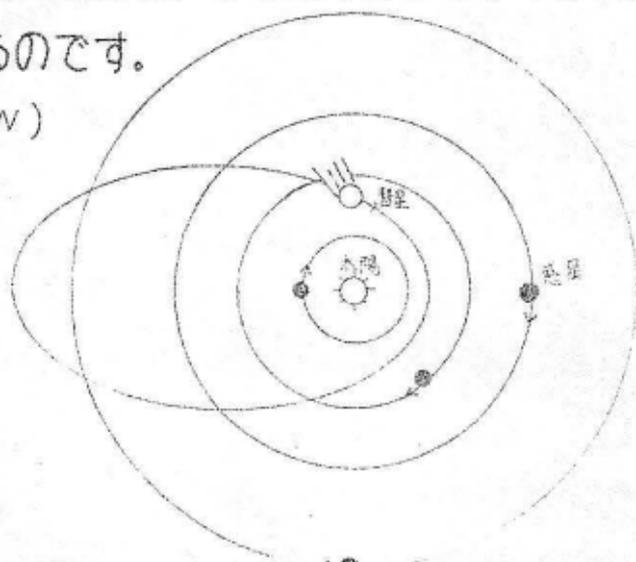
(尾はへびの形をし、矢がいくつもつきささっていると表現されている)

ロ星(コレラの意)と呼ばれていたことがわかっています。

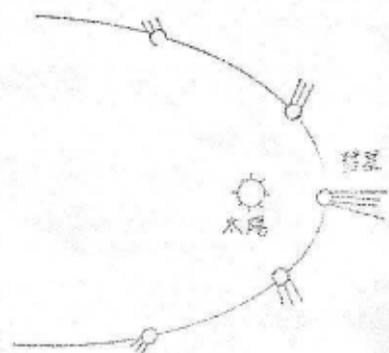
最近尾が長く見えた彗星は1976年のウエスト彗星、1970年のベネット彗星、1965年の池谷・関彗星でしょう。明るい彗星が見えるのは5~10年に1回という割合のようです。明るい彗星が出た年に何か事件が起こると彗星と関連づけられ、迷信が生まれたのでしょう。ところで、この人騒がせな彗星とは一体どのようなものでしょう。

彗星の本体は直径数kmぐらいの水やチリが固まったものと考えられています。地球の直径が約1万3千km、太陽の直径が約140万kmですから、天体としてはいかに小さいかがわかります。ところが、彗星が太陽に近づき熱せられて、彗星の物質がまわりに放出されるとうすいベールをまとったようになり、その大きさはたちまち太陽ぐらいになるのです。しかも太陽からの光の圧力や粒子の圧力で、彗星物質が吹きとばされ太陽と反対側に見事な尾ができるのです。尾は長い時には地球と太陽の距離（約1億5千万km）よりも長くなります。華麗なる大変身です。ですから、明るい彗星は太陽に近い夕方の西空が明け方の東空に尾を上に向けるように見えます。そして、彗星を新しく見つけようとする人は、その方向に望遠鏡を向けるのです。

(M.W)



彗星の軌道 (彗星の軌道は惑星と違って円である)



彗星の尾の変化  
(尾は太陽と反対方向にでき太  
爾に近づくほど長くなる)



富山市科学文化センター

富山市西中野町3丁目1番19号 (〒930-11)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和58年9月1日発行